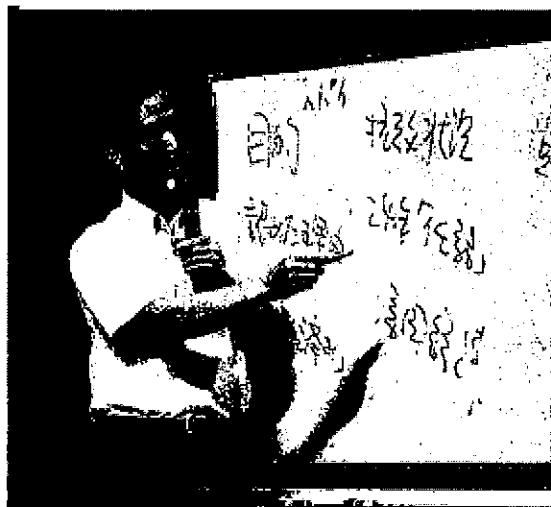


拉致問題完全解決へ

「対北朝鮮政策が重要」

中越地区
市議研修 蓮池薫さん講演



中越地区市議会議員研修
会（同議員会主催）が1日、
朝鮮による拉致被害者で、
新潟産業大学特任教授の蓮
池薫さん（67）を講師に迎え
て行われた。蓮池さんは拉
致問題の解決に向け、「日

本政府は米国、韓国と一致
団結した対北朝鮮政策を取
ることが重要」と力を込め
た。
研修会は地区内持ち回り
で開かれ、柏崎では201
4年以来、長岡、三条など

10市の市議約200人が集
まった。開会のあいさつで、
開催地の阿部基・柏崎市議
会議長が「拉致問題は単な
る過去の事件ではなく、今
も解決していない重大な人
権侵害であり、国家主権が
侵された深刻な問題だ。決
して他人ごとではない」と
述べた。市長代理の西巻副
市長は歓迎のあいさつで、
柏崎市の自然、歴史などを
述べた上で「拉致問題に時
間の余裕はない。一刻も早
い完全解決を」と理解と協
力を求めた。
研修会のテーマは「拉致
問題の真相と現情」にお
ける問題解決の条件」。蓮
池さんは1978年、大学
3年のとき、市内の中央海

岸で妻の柏木さんともに
北朝鮮に拉致された。2
002年の日朝首脳会談
後、24年ぶりに帰国を果た
した。

蓮池さんは「拉致問題が
動いたのは、北朝鮮の経済
状況の悪化の中、日本との
国交正常化で、過去の清算
として、多額の経済協力が
得られると見たからだ」と
語った。

拉致問題が進展しないこ
とに対し、蓮池さんは憤り
を見せながら「問題解決の
ためには、核・ミサイル問
題と切り離して優先的にや
るべきだ」と強調。「北朝
鮮に対して強気で圧力をか
けるだけでなく、国際制裁
に抵触しない範囲での、見
返り」を提示しつつ、日本
政府は交渉を進めるべき
だ」とも述べた。北朝鮮
に対し、「日本政府は米国、
韓国と一致団結し、大局的
な戦略を立てて進めていく
必要がある」と訴えた。

産大レクチャー ●●● ア・ラ・カルト (21)

「朝霧にもラウン
ドに」若人の走る人影が
見え隠れすると柏崎の町
は朝を迎えると言われて
いました。私も地元柏崎
の陸上競技に育てられた
一人です。その柏崎市陸
上競技場が一年前に10
0周年を迎えました。公
認陸上競技場としては全
国一古い競技場としてそ
の名を知られているとい
えます。

これは一人の小学校教
員坂田四郎吉氏が、体の
弱かった自分を体操によ
り鍛え元気で健康になっ
たことから、現柏崎小学
校裏の砂原を「市民に健
康になってもらいたい」
という願いを込めて、大
運動場の建設に尽力した
ことがスタートです。当
時は誰も賛同する人はい
なく青負子とスコップ1
つではじめ、一年半に及

ぶ各所への請願により、
農林部で勤労奉仕の輪が
広がり、地元有力者の協
力や市議会も動きだし1
923年に完成しまし
た。当時国立競技場もま

部吉(グラウンド建設と
整備) ②洲崎義郎(行政
から尽力) ③島掛繁次郎
(陸上競技の強化と人材
育成) ④今井哲夫(五輪
出場、元柏崎市長) ⑤月

柏崎と陸上競技

だない中で柏崎は日本最
先端の競技場を持つこと
となります。

この柏崎市陸上競技場
の建設と陸上競技の普及
には、5人の人物がかか
わっています。①坂田四

稲田、歴々の優秀な陸上
競技者が柏崎で練習して
オリンピックや世界大会
に出場する姿が柏崎で見
られていました。
今井哲夫氏は後に柏崎

池嶋 聖也

市長となり、競技場を県
内一早く全天候型トラッ
クに改修し市民がより健
康で活動できる場とし、
自由に陸上競技場が使え
るようになってくまし
た。これらの人たちの意

志を引き継ぎ、今日まで
に小中高、一般と優秀で
立派な選手や指導者が輩
出されてきています。
それは100年も前か
ら、先人たちの「陸上競
技を愛し全国で活躍する
選手が育つ町になっても
らいたい」という願いが
込められた土地だからと
思っています。市民の力
を結集し、流した汗が染
み込んだ陸上競技場だか
らこそ、そこから湧き出
る見えない力や空気が子
供たちの背中を後押しし
てくれていると感じてい

ます。誰から言われるこ
となく、練習後に敬意を
払いグラウンドに一礼す
る競技者の姿を見ると、
心が熱くなる思いがしま
す。
松原義彦氏が1988
年400リレーでワウ
ル五輪に出場してから37
年の歳月が経ちます。ま
たこのグラウンドから世
界に飛び立つ選手が出て
くることが期待し、この
風土をみんなで継承して
いければと思っています。
(教壇)

ゼミ活動の 成果を発表

新潟産大

新潟産大は、2年生98人による「地域理解ゼミナール」前期合同発表会を学内で開いた。4テーマに分かれたゼミ活動の成果をグループ発表し、地域企業や農業、文化、まちづくりに関する研究を通じて得た学びを共有した。

同大では「地域社会や企業を主体的に力強く支える人材の育成」を目的に掲げ、実践的な教育を展開する。1・2年生は「地域理解ゼミナール」を必修とし、3

年生から「地域活性ゼミナール」（専攻ゼミ）につなげている。

2年生は、地域企業経営、

地域農業・6次産業、地域

文化などの各分野から一つ

を選び、フィールドワーク

を取り入れて実践した。先

月中旬の発表会で、関係人

口増加のための「PR動画」

を制作した経済経営学科の

高橋大和さん、村上市出身

のIIは「授業外の時間にも協

力して動画を撮影し、約4

週間かけて編集した」と振

り返り、「（発表会で）柏崎にもまだまだ知らない魅力があると気づかされた」と話した。

講師で黒岩直准教授は

「この発表からも地域につ

いて深く学び、愛着を持つ

ようになったことが伝わっ

てきた。今後の学びや実践

にぜひつなげてほしい」と

激励した。

.....

2年生の地域理解ゼミナ

ール合同発表会Ⅱ新潟産

大



【新治大学スズ】 地域に学び 地域をみす

— 実践活動レポート —

現地調査から 地域貢献へ

近年、大学教育の現場でフィールドワーク（現地調査）を積極的に取り入れる動きが広がっている。本学でもその重要性をふまへ、地域の様々な課題と協力をいたしながら、学生の学びに活用している。そこで、改めてフィールドワークの意義を考えてみたい。

普段、学生は教室で理論や知識を学んでいるが、それに加えて実際に

現場で調査をするとは重要なこととなる。

フィールドワークは単なる学外体験ではなく、学生が自ら問いを立てて、観察や調査を行う。

この一連の経験は、学生の主体性や批判的思考を養うこと、教習で得た知識をどのように実践に生かすかを考えることにつながる。また、地域社会と連携して解決策を模索することもあり、大学教育を社会貢献へとつなげる役割も果たしている。

筆者は調査やSNS分野でフィールドワークを担当して

おり、調査の一環としてフィールドワークの機会を多く設けるようにしている。その活動範囲は柏崎市内外に限らず、市外や県外へも徐々に広がっている。

その目的のひとつは、学生に広い視野から柏崎を見つめ直す契機としてもちこたにある。市外や県外でのフィールドワークを通じて「柏崎と何が共通しているか、何が異なっているのか」を考え、柏崎の現状を通過した地域活性化を構想する上で欠かせない。

ゼミ生の今村宗博（経済学4年）は、「他地域に足を運ぶことで人々や環境を直接感じ、地域との工夫や解決方法を学ぶことができる。それによって柏崎とその地域を比較する視点

点が得られて、柏崎の地域課題がより鮮明になる」と語っている。

今後も柏崎の地域課題の解決に向けて、学生とともにフィールドワークを積み重ねていき、その

で得られた成果を「地域をみす」実践につなげていきたい。

経済学部講師・渡倉朋樹
（同大学地域連携センター）



学生のステージ、展示 「産文フェス」31日に

市産文会館で31日、柏崎市を中心にした学生による芸術、サークル活動の発表の場として、「産文フェス」が開かれる。イベントは学生が主体になった企画運営で、初の試み。ステージ、展示・活動発表などを繰り広げる。時間は午前10時から午後3時。入場無料。

主催は同館、共催は市教育委員会。

イベントは学生たちが企画運営をすることで、活動発表のノウハウを磨くこともうかがえる。出演・出展の代表者ら約10人がそれぞれ交流を楽しみながら、開催内容を確認してきた。



高校生、大学生が日頃の活動成果を発表する「産文フェス」のチラシ

演奏会に切り替え、J・P・O P、響き語り、軽音楽など6グループが出演する。学校の垣根を越え、コラボにも挑戦する。軽音楽、和太鼓体験のブースも設ける。

展示・活動は写真やプラモデルの展示、貼り絵、版画・写真・銅板レリーフなど。飲食ブースもある。スタンパリーの抽選会は正午と午後2時。主催者は「高校生、大学生の活動成果をぜひ楽しんでいただきたい」としている。

ステージ、展示・活動発表は次の通り。

ステージII papyrus
s（新潟工科大、J・P・O）
P▽新潟産大軽音楽部、軽音楽▽田舎ノ飯（新潟工科大、弾き語り）▽新潟事変（柏崎、軽音楽）▽アボロ18号（新潟工科大、J・P・O）▽輪太鼓奏太鼓舞（長岡造形大、和太鼓）
展示・活動発表II 新潟工科大環境推進学生会（活動発表）▽同大写真部（写真）▽同大プラモデルサークル（プラモデル）▽はまなす特別支援（貼り絵）▽柏崎特別支援（版画・写真・銅板レリーフ）

J R X 産大 駅ハイコラボ

柏崎まち歩き

J R 東日本新潟支社は
新潟産業大（梅比良眞史
学長）とコラボし、市内
で「駅からハイキングX
AR体験」を開催する。
テーマは「柏崎を写真に

残したい！海・文化・
カフェ巡り」ARで広
るまち歩き体験」。期
間は9月1日～10月末。

新潟産業大「観光分野

ゼミナール」の学生が市
内活性化を期待し、スポ
ットを設定した。柏崎駅
からスタートし4・8分、
約2時間半のハイキング
コース（柏崎駅→TEA

ENSEM

BLE↓甘味

処 鮎庵↓み

などまち海浜

公園↓県立柏

崎アクアパ

ク↓MALI

BU CAF

E↓関魔堂↓

駅前公園

↓駅前S

TAYt

ionぶ

らつと↓柏崎駅）。自然

や文化、食を楽しみなが

ら、思わず写真を撮りた

くなるルート。各スポッ

トでは「XR CHAN

NEL」アプリを使うこ

とで、学生が考案したA

R解説コンテンツも登場

する。

参加無料（飲食代など

は個人負担）、受付時間

は午前11時～午後1時

半。スマートフォンに「駅

からハイキング」アプリ

を写真、別掲QRコード

をダウンロード。

